

JPDA 7月定例理事会議事録

日 時：令和2年7月15日（水）午後1時30分～午後5時10分

場 所：オンライン（Zoom）

出席者：理事24名中22名（伊藤 透、井上 聡、加藤芳夫、青木（入江）あずさ、石浦弘幸、伊藤雅文、牛島志津子、畝野裕司、江藤正典、小川裕子、小川 亮、加藤（桑）和美、小原 司、高田知之、竹内清高、中越 出、永田麻美、中森恭平、松尾政明、三原美奈子、森 孝幹、山崎 茂）

監事2名中1名（藤田 隆）

欠席届（梅原 真、時田秀久、信藤洋二）

議事録署名人： 伊藤 透、井上 聡
藤田 隆

議事の経過

定款第31条（議長）により伊藤理事長を議長に選出し、議長は直ちに本日理事会出席者23名を確認、定款第32条（決議）による出席者が過半数に達していることを確認し、定款第34条により議事録署名人が伊藤透理事長、井上聡副理事長、時田秀久監事の3氏であることを確認し、議事に入る。

※ゴシックは承認事項

第1号議案 新入会員入会審査の件

本日の理事会までに、個人2人から入会申込みがあり、定款6条（会員資格の取得）並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記の入会を承認した。

（1）個人会員

<東日本>

1. 大庭 笑梨（おおば えみり）（推薦者=森 孝幹）
2. 金子 裕（かねこ ゆたか）（推薦者=時田秀久）

第2号議案 退会承認の件

本日の理事会までに退会届けを提出した下記の法人会員1社の退会を承認した。

（1）法人会員

<海外>

1. Gmund GmbH & Co. KG (ドイツ) 【令和2年7月末退会希望】

(ドイツ本社の方針のため)

第3号議案 協会名義使用承認の件

本日の理事会までに下記2件の協会名義使用の依頼がありこれを承認した。

(1) 協力名義使用の依頼

1. 「BUSINESS DESIGN EXPO 2020 Vol.1」

(主催：一般社団法人中部広告制作協会、株式会社広瀬企画)

① 企業とクリエイターをつなぐポートフォリオ展示スペース

【2020年12月9日(水)～14日(月) 国際デザインセンター4Fデザインギャラリー】

② 懇親・発表会

【2020年12月10日(木) 19:00～21:00国際 NAGOYA INNOVATOR'S GRAGE】

- ・伊藤理事長より、「開催が名古屋でもあり、JPDAとのマッチングができると面白いのではないか」とのコメントがあった。
- ・加藤専務理事からも、「新会員獲得のために協会案内(小冊子)を配布してもらってはどうか」との意見がでた。(一度事務局から先方に連絡を取る予定。)

(2) 後援名義使用の依頼

1. 「第14回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション (MUD)」

(主催：全日本印刷工業組合連合会)

- 具体的な内容日程については鋭意準備を進めているとのこと

第4号議案 正副理事長報告

伊藤理事長、井上副理事長、加藤専務理事より、現状の活動状況について以下の報告があった。

- 伊藤理事長報告
- ・7/3 事務局テレワーク規定打合せ (オンライン(以下OL) : Zoom)
 - ・7/9 東日本委員会 (OL : Zoom)
 - ・7/10 西日本勉強会「こえる」” AdobeCCで乗り越える”
(OL : Bluejeans) + 交流会 (OL : Remo)
 - ・7/14 日本パッケージングコンテスト審査
⇒「例年は広めの会議室に全審査員が一同に会して審査を進めるが、今年は3日間に分けこれまでよりも少人数で審査を行った。JPDA大賞の審査の参考になると思う」とのコメントあり。
 - ・7/15 定例理事会 (OL : Zoom)
 - ・7/17 60周年企画展打合せ (OL) に出席予定

- ・ 7/22 「ひろめる価値ユニット」キックオフ（OL：Zoom）に出席
予定
 - ・ 7/29 日本印刷技術協会「パッケージデザイン懇話会」で講演予定
 - 井上副理事長報告
 - ・ 7/3 事務局テレワーク規定打合せ（OL：Zoom）
 - ・ 7/10 西日本勉強会「こえる」” AdobeCCで乗り越える”
（OL：Bluejeans）＋交流会（OL：Remo）
 - ・ 7/15 定例理事会（OL：Zoom）
 - ・ 7/22 「ひろめる価値ユニット」キックオフ（OL）に出席予定
 - 加藤専務理事
 - ・ 7/2 出版委員会（OL：Zoom）
 - ・ 7/3 テレワーク規定打合せ（OL：Zoom）
 - ・ 7/15 JPDA学生賞についての打合せ・理事会（OL：Zoom）
 - ・ 7/17 60周年企画展打合せ（OL）に出席予定
 - ・ 7/22 「ひろめる価値ユニット」キックオフ（OL）に出席予定
- ※活動報告ではないが、2012年以降続けてきた「おいしい東北」は、
仙台の事務局から、審査方法がオンラインになる可能性もあるが、
今年度も継続開催の予定との連絡があった。

**第5号議案 事務局テレワーク規定【規定33】の新設と、それに伴う事務局就業規定【規定27】、
リスク管理規定【規定24】の一部修正の件（別紙参照）**

渡邊事務局長より、「事務局テレワーク規定」の新設についての提案があり、出席者全員の賛同を得て承認された。

<以下は渡邊事務局長の説明>

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令された4月上旬から解除された5月下旬までの間、JPDA事務局員も基本的にテレワーク（在宅勤務）としたが、現状ではこのような勤務体制についての規定が整備されていなかったため、これを機に新たに規定を追加することとした。
- ・ その骨子は以下のとおり。
 - ① 現在ある「事務局就業規定【規定27】」には含めず、別の規定：「事務局テレワーク規定【規定33】」を新設した。
 - ② これに伴い、「事務局就業規定【規定27】」の第2条（適用範囲）に「第3項 事務局員のテレワーク勤務（在宅勤務）に関する事項については、この規則に定めるもののほか別に定めるところによる。」を追加した。
 - ③ また、これまで「リスク管理規定【規定24】」第3条（定義）の第3項（人的危機）に「従業員の健康上の問題」を加えるとともに、第4項（外部からの危機）

には言及されていなかった、「感染症の拡大等による災害」を加えた。

同様に、第12条（緊急事態の範囲）の第1項（緊急事態の範囲）に「イ 感染症の拡大等による健康上の災害」を加えた。

- ④ 「事務局テレワーク規定【規定33】」（詳細は別紙参照）については、厚生労働省の『テレワークモデル就業規則～作成の手引き～』をベースに作成した。

＜出席の理事からの意見（敬称略）＞

- ・規定集は、その内容を熟知していない理事も多いと思うが、どこに行けば見ることができるのか。また、今後「規定集」の存在をどのように役員に認識させるのか。（加藤）
- ・規定の中には「個人情報保護規定」等の、役員として守るべきこと、してはならないこと、知っておかなければならないことがある。全てというわけではないが、必要なものは共有化しておく必要があると思う。（中越）

⇒規定集は平成25年の公益法人移行に伴って見直され現在の形になっており、事務局に来ていただければすべてをご覧になることができる。また、新会員には入会審査の翌月に会員に必要なところを抜き出した冊子をお送りしている。

しかし、その後、細かい改訂が加えられているものもあり、今年度中にメンテナンスしてまとめる予定である。代表役員には整備された規定集をお送りするつもりだが、役員が知らなければならない規定については、理事会で別途説明するようにしたい。

（渡邊）

第6号議案 委員会報告（●は資料あり）

＜報告事項＞

●展覧会（創作展）

- ・小川（裕）理事より、資料に基づき、2021年に延期となった第3回創作展「みらいパッケージ展」の進捗状況についての報告があった。
 - ① 東で開催を予定している渋谷ヒカリエより優先案内がきたので、第3希望までの開催期間を提出した。第1希望（9/17（金）～9/29（水））あるいは第3希望（9/6（月）～9/15（水））になることを期待している。
 - ② コロナ禍の影響により「みらい」についての考え方が変わってきていることも考えられることから、参加者で「みらい」のテーマを再考するようなことができないかを委員会で議論を進めている。
 - ③ 期間中会場で、3回の創作展出品作品をまとめた記念本を販売する予定だが、ヒカリエに手数料を取られる可能性あり。
- ・西の開催場所については中森理事より、「創作展同様に2021年に延期されたAPDが奈良で2021/11/19（金）の開催を予定していることから、奈良での予約を進めたいが、

2020年と同じバスターミナルがとれるかどうかは不明。もしできなければ、別の場所も検討することになる。」との補足があった。

●中日本（北陸）

- ・畝野理事より、資料に基づき、「富山デザインフェア」は2020年も開催する予定との連絡があった。2020年はJPDA大賞の巡回展はないが、毎年行われている学生のパッケージコンペの入賞作品は会場で展示される予定。」との報告があった。なお、畝野理事は学生コンペの主任審査員として、審査に加わるとのこと。

●デザイン保護

- ・高田理事より、資料に基づき、6/24(水)にオンライン(Zoom)で開催した3回目の知財塾についての以下の報告があった。(参加者は11名、2名の欠席あり)
- ・講義中、メインPCのハードトラブルがあったが、バックマシーン切り変えて大事には至らなかった。良かったところは運営する委員数がいままでより少数で済んだことだったが、反省すべき点は出欠確認の仕組みを検討しておく必要があったことと、参加者からのチャットに対応する担当者を決めておけばよかったところであり、事前準備が重要だと感じた。
- ・参加者からは3回分の参加費を事前に徴収していたので、欠席者には後日講演の内容をDVDにして送る予定である。
- ・高田理事・伊藤理事長から「オンラインの場合、顔・音声は出しているのか現状を聞きたい」との質問に対する、他の理事からの現状報告は以下のとおり。(敬称略)
 - ① 社内の会議で少人数の場合は、顔を出すことが多い。(加藤、石浦、山崎)
 - ② 社内の会議でも通信に負荷がかかるので顔は出さない。(中越、小原)
 - ③ セミナー・講演会・学校での授業では通信に負荷がかかるので、ビデオ(顔)、音声とも出さない。(中越、加藤、山崎、石浦、小原)

●コンペティション

- ・小原理事より、資料に基づき、一次審査の結果(入選405点)と8月27日の二次審査についての報告があった。
- ・二次審査は13分野の上位各約14点を審査対象(全156作品)とし、現物審査を基本としたいが、コロナ禍の状況を見てリモート審査も検討したい。会場審査とリモート審査の両方になることも考えられるとのこと。

<出席者からの意見(敬称略)>

- ・現物審査は理解できるが、賞を決めるときの話し合いはかなり「密」の状態になるので、ソーシャルディスタンスがきちんと確保できないのであれば、リモートだけの審査にしてほしい。(加藤)
- ・投票までは現物を見せて、入賞についての討議をリモートにしてはどうか。(伊藤(亮)、

永田、山崎)

- ・現物審査であれば、マイクを人数分用意して、一人ずつ手袋を配布してほしい。(小川(裕))
- ・今の環境を考えればリモートであってもこの時ならではのというリアルさはあるのではないか。(石浦、加藤)
- ・最終的にコンペティション委員会で再検討するしたい。(小原)

●調査研究

- ・中越理事より、資料に基づき、2020年度の活動計画について以下の報告があった。
- ・2020年度は第3回研究会の開催がない前提で進めるが、2021/2/24～26、東京ビッグサイトで開催予定の日本包装技術協会主催の『TOKYO PACK 2021』のパッケージデザインパビリオンに出展し、JPDA調査研究委員会の活動を発表する予定である。

●インターネット

- ・中越理事より、資料に基づき、5～7月の委員会活動についての以下の報告があった。
- ・2019年度に進めてきたサイトリニューアルは予定通り6/15にオープンした。
- ・経産省から周知依頼があった「家賃支援給付金」は7/14より受付開始となっている。
- ・前回の理事会で案内したイベント告知案内のメイン画像サイズが H1160pxからH1200px(最終)に変更された。

●国内交流

- ・桑理事より、6/22の「まなび交流ユニット」キックオフミーティング用に作成した資料に基づき、2020年度の活動計画について以下の報告があった。
- ・今年度はオンラインでの交流会を複数回開催し、これまでは距離の問題で参加できなかった会員も取り込むようにしていきたい。また、交流会は少人数から中～大規模のものまでいろいろなタイプを検討し、西日本の勉強会の運営方法も参考にしながら、結論を出していきたいと考えている。
- ・加藤専務理事から、「あまり難しく考えずに「井戸端会議」的な交流でもよいのではないか」とのコメントがあった。
- ・小川(裕)理事からは、「展覧会委員会も2020年度に同じようなオンライン会議を検討しているが、時期や内容がかぶらないようお願いしたい。イベントを開催するときはいつも事務局に他の委員会の動向を聞いて決めている。」との発言があった。
- ・伊藤理事長から事務局に対し、「いろいろな委員会のスケジュールをまとめて役員間で共有してほしい」という指示があり、渡邊事務局長から委員会後の議事録をきちんと送っていただければ可能であると回答したが、三原理事より「都度事務局で対応するのは大変なので、Google Calendarのようなソフトを使って、各委員会がそこに書き込んだ情報を全員で共有してはどうかとのアドバイスがあり、進め方を事務局で

検討することになった。

●西日本

- ・三原理事より、資料に基づき、7/10(金)に開催した西日本勉強会 こえる Vol.1 オンラインセミナー&交流会についての報告があった。
- ・講師は今回3回目となるAdobeの岩本氏、オンラインアプリはAdobe推奨の”BlueJeans”を使用。申込みはセミナーが87名、交流会が20名、参加費は無料であった。
- ・今回のような大人数のオンラインセミナーは初めての試みだったので、参加者にどのように案内するかを悩んだが、当日のスムーズな運営のため、西日本委員各自が事前にオンラインアプリを勉強して臨んだ。事前にチャットの質問を纏めるスタッフを3名、操作のアドバイスを行う技術スタッフを3名決めて運営を行ったが、それでも始めは入りにくいという声もあり、今後の課題と考えている。
また、交流会は”Remo”という<少人数の4人が1つのテーブルにつき、途中で席を移動していろいろな人と話ができる>というアプリを使用した。
- ・まだ一部の参加者の意見だが、終了後のアンケート(Google Homeというソフトを使用)によると、オンラインセミナーへの参加は今回が初めてという方が全体の60%、今後、オンライン交流会に参加したい、参加してもいいという方が全体の70%であり、概ね成功したのではないかと考えている。(セミナー・交流会についての具体的な反省点は議案書資料を参照)
- ・交流会の”Remo”というアプリは使い勝手は悪くないが、費用が高額なのが難点。
(昨日まで、50人・1.5時間が5,000円/1ヶ月だったが、今日から、同じ条件で120US\$/1ヶ月に値上げされるとのこと)

○教育

- ・永田理事から口頭で、今後のセミナーの内容についての経過報告があった。
- ・昨年のJPDA vs. JAGDAの2回目として講師の候補に葛西薫氏、新潟の石川竜太氏、ロサンゼルスの大黒大悟氏などの名前が挙がっている。7/30の委員会で候補を絞り具体的な交渉をスタートさせるとともに、有料開催の可能性を探りたいと考えている。
今後の検討を進めるに当たっては、伊藤理事長からもお話しがあった、他の委員会との情報の共有化、オンラインソフトについての情報交換をよろしくお願ひしたい。
- ・三原理事から、有料の場合技術的な面を外注するとよいのではないかとというアドバイスがあった。

○国際交流(アスパック)

- ・アスパックについてはオンラインであっても今年度の開催の目処はたっていないことから、森理事より資料に基づき、今年度のアスパックに代わる学生に対する活動として「パッケージの未来をつくる人をつくる」という考え方について以下の提案があっ

た。

- ・これまでアスパックと一緒に仕事をしてきた江藤理事、三原理事と今年のことを考えてきたが、現在学校ではパッケージデザインに関する授業がないのが現状であり、デザインを学ぶ学生に対し、パッケージデザイン制作の楽しさや奥深さを知ってもらい、パッケージデザインの価値を広め、パッケージ業界の未来を作っていけるような活動を「まなび交流委員会」の中で検討していきたいとのこと。
- ・江藤理事より、「いままで北海道から沖縄まで、アスパックを通じて多くの学校とコンタクトしてきたが、学校からのニーズもあり、その関係を生かしたオンラインワークショップ等の開催を考えてはどうかと考えている。」という補足があった。
- ・三原理事からは「学生のアワードを実現するにはかなりの準備が必要なので、まずは今年何ができるかを考えて、いままでの学生との関係を保っていききたいと思っている。」とのコメントがあった。
- ・伊藤理事長から「では、学生賞ありきの提案ではないと考えてよいか。」との確認があり、森理事からは「その通りで、まずは今年できることを考えていきたい。」との回答があった。

<出席者からの意見（敬称略）>

- ・いままでのアスパックは国際交流と学生教育の二つの側面があったが、今回の提案は国際交流の側面はなくなると考えてよいか。また、現在の教育委員会はパッケージデザインのプロ向けの教育だと思うが、セミナーを開催することが中心となっていて、教育とは離れてきているのではないか。（石浦、伊藤(雅)）
- ・その通りだと思う。今日の提案はいままでアスパックに関わってきた方たちからのものではあるが、国際交流とはかけ離れたものであると認識している。実際にコロナ禍の中では国際交流は休止状態にあって、この提案はまさしく学生対象の教育活動だと思う。
また、今の教育委員会がやろうとしていることは、セミナー開催や他団体との共催事業であって、委員会の名前とやろうとしている内容が整理がついていないようにも見える。井上副理事長が進めている委員会再編（3つのユニットの新設）はその現状を変えようとするコンセプトだと思うが・・・（伊藤(透)）
- ・3つのユニットの考え方は、いままでの委員会の枠にとらわれず、協会の事業の枠組みを大きくして、広い視野に立った議論をしていくところにある。教育に関しても、対象が社会人と学生によってそのあり方が必要だろうし、アワードもしかりである。今回の提案は学生向けの全国的なセミナー（ワークショップ）の企画ととらえている。（井上）
- ・どこかで別途進めているパッケージデザインの学校との接点を持てれば面白いと思う。

(小川(亮))

- ・学生向けの教育は必要だと思うが、学生アワードも重要だと思うので、是非検討していただきたい。(山崎)
- ・今年度の実現は難しいと思うが、協会内の合意が取れば将来的に実現することは可能だと思う。(江藤)
- ・個人的な意見だが、学生の創作作品によるコンペは止めてほしい。JPDA大賞はコンペのための創作物ではなく、すでに市場にある商品のコンペであり意味づけが異なる。また、アワードを実現するためにはかなりの予算と準備が必要となる。(加藤)
- ・森さんをお願いだが、「パッケージ」ではなく「パッケージデザイン」という言葉を使ってほしい。JPDAはパッケージ協会ではなくパッケージデザイン協会である。(藤田)
- ・全く同感。(伊藤、加藤)
- ・今日の提案が「今年度中に学生を対象としたセミナー(ワークショップを含む)を開催する」というものだとすれば、時間的に見て9月の理事会でその企画内容を提案していただきたい。また、学生賞についてはその後で別途提案するようお願いしたい。(渡邊)

○広報

- ・中森理事から、先日送った次回の広報誌に掲載する役員紹介のフォーマットについて共有化されていなかったようなので、時間があまりない中、質問があればお受けしたいとのコメントがあった。現在1,000部(実際は1,200部)印刷し、会員以外に関連の団体、学校にも送っているとのこと。
- ・それに対し、松尾理事から「体裁はなんでもありということだが、皆さんからの原稿が集まった時にバラバラにならないかという心配がある。またコロナをどこかで意識する必要があるのか。」との質問があり、中森理事からは「コロナ禍の中、皆さん苦しんでいる中で、役員の方々はどのような活動をされているのかを淡々と語っていただければよいので、基本的には自由なスタイルで結構である。」との回答があった。
- ・中越理事からの「今二つの委員会を担当しているので、それぞれの活動をPRしたいと思っている。顔写真は2年前に広報用として撮影したものを使っても構わないか。」との確認に対しては、「それで問題ない。」との回答。

●アーカイブ

- ・入江理事より、資料に基づき、7/9(木)に開催した委員会での内容について以下の報告があった。
- ・声のアーカイブについては第4回：佐藤昭夫氏、第5回：高橋敏氏を候補に現在交渉中であり、撮影は8月下旬、公開はJPDAサイトの会員専用ページで、第4回10月初旬、第5回2021年3月初旬に予定している。

- ・事務局の地下倉庫に保管しているアーカイブ作品の整理は今年度中に完了する予定。
- ・日本デザイン団体協議会（D-8）のジャパンデザインミュージアム（JDM）設立研究委員会は豊島区で進めている「アート・カルチャー都市計画構想」の特命大使として、その事業活動に参加しており、昨年12月に「ジャパンデザインとは何か」と題したトークショーを開催したが、今年度も12月に1950年代、2010年代の代表的なデザインのクロニクルを中心としたトークショーを開催する予定。また、広報の一環としてJDM設立研究委員会のパンフレットを作製中である。
- ・加藤専務理事から、「ジャパンデザインミュージアムについてはWebでの発信も考えているのか」という質問があったが、現状では具体的な検討は進めていないとのこと。

○出版

- ・山崎理事より、口頭で年鑑と印刷博物館P&Pギャラリーでの展覧会についての経過報告があった。
- ・年鑑の撮影は入選作品を8/25に送ってもらい、9/10～25の2週間で全て終える予定。二次審査がそれ以降になった場合は、入賞作品のみ再度撮影するように考えている。今回の年鑑はコロナの問題から応募期間を延長したり、初めて画像審査もあったことからドキュメント風に仕立てる予定。また、今回は松田澄子さんをADに起用し、編集にも参加してもらいたいと思っている。
- ・印刷博物館での「現代のパッケージ展」（10/10～12/6）では「ロングセラー商品の誕生と現在」を展示したいと考えているが、今後の委員会でそれが可能か、また、何点くらい展示するかを詰める予定。

第7号議案 事務局報告

渡邊事務局長より、資料に基づき、以下の事務局報告があった。

1. 1960年5月～2020年3月会員異動状況についての説明。
2017年に800人・社となって以降、毎年会員数は減少傾向にあり、2020年3月時点では774人・社となっている。（詳細は議案書資料参照）
2. 第39回総会議事録・JPDA事業カレンダーは7/16(木)に発送される予定であること。
3. 役員改選に伴う法務局への登記は7/20(月)に終了の予定。
4. 日刊工業新聞から取材をうけたが、営業的なものであったこと。
5. 事務局業務と組織図についての説明。
6. その他
 - ・2020年度中にJPDA規定集のメンテナンスを行うこと。
 - ・令和3年度「全国発明表彰」についての案内
 - ・JPDAの協賛名義の使用を承諾していた「西日本食品産業創造展'20」（5月、福岡）の

開催中止の報告。

第8号議案 次回理事会開催の件

伊藤理事長、渡邊事務局長より、次回の理事会開催について以下の案内があった。

日時：令和2年9月9日（水）午後1時30分～5時

場所：文京シビックセンター(区民会議室) 3階 会議室 1

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前

- ・渡邊事務局長より、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンラインでの開催になる可能性もあるが、リアルのみかオンラインのみかのどちらかの方法で開催したいとの補足があった。（開催案内はお盆休み前に送る予定）

以 上